

計算書における項目	記号	記号の説明
1.3使用材料・仕様及び許容応力度表（木材）	F c	基準圧縮強度
	F t	基準引張り強度
	F b	基準曲げ強度
	F s	基準せん断強度
	F c v	基準めり込み強度
	E b	ヤング係数
1.3使用材料・仕様及び許容応力度表（鉄筋・コンクリート）	r f c	鉄筋の許容圧縮応力度
	f c	コンクリートの許容圧縮応力度
	f t	鉄筋の許容引張り応力度
	w f t	鉄筋の許容せん断応力度
	f s	コンクリートの許容せん断力応力度
	f a	コンクリートの許容付着応力度
1.4.3.積雪荷重	β	低減用屋根勾配
	μb	屋根形状係数
1.4.4.速度圧の計算	Z b	地表面粗度区分に応じて定められる数値
	Z G	地表面粗度区分に応じて定められる数値
	α	地表面粗度区分に応じて定められる数値
	V 0	令87条2項及び建告1454号第2で定められる風速
	H	建物高さ（建物の高さ）と軒高との平均
	G f	ガスト影響係数（地表面粗度区分に応じて定められる数値）
	H'	HとZ bを比べて高い方の数値
	E r	平均風速の高さ方向の分布を表す係数
	E	令87条2項及び告示第1454号第1に定める方法で算出する数値
	q	速度圧
	Kz	告示第1454号第3の2の表によって算出する値
	Z	当該階部分の地盤面からの高さ
	Cf	風力係数
1.4.5.地震力	H	建物高さ（建物の高さ）と軒高との平均
	Z	地震地域係数 建告1793号で定められた数値
	C 0	標準せん断力係数 令88条第2項より0.2以上
	Rt	振動特性係数 建告1793号第2に定められている方法で算出する
	T	一次固有周期 木造の場合 $T=0.03 \times H$

計算書における項目	記号	記号の説明
2.耐力壁の設計		
2.1.耐力壁配置と有効壁長 L_d (令46条)	a_i	壁倍率
	I_i	壁長さ
	L_d	当該通りの有効壁長さ
	P_i	耐力壁の許容せん断力 (令第46条の耐力壁)
2.2.1.地震力に対する所要壁長の表	A	ロフト面積
	h	ロフト高さ
2.2.2.風圧力に対する L_n の表	A_w	各階見付面積
	ΣA_w	見付面積合計
2.2.3. L_d/L_n の比率の表	L_n	必要壁長
2.2.4.偏心率の計算	O_y, O_x	重心位置
	G_y, G_x	剛心位置
	e_y, e_x	偏心距離 (重心と剛心のずれ)
	J_x	剛心 G を原点とする座標軸 x に対する、水平剛性の2次モーメント
	J_y	剛心 G を原点とする座標軸 y に対する、水平剛性の2次モーメント
	J_x+J_y	ねじりの剛性
	r_{ex}, r_{ey}	弾力半径
	R_{ex}, R_{ey}	偏芯率
2.3.許容せん断力 P_i (令82条)と剛性の算定	a_i	壁倍率
	I_i	壁長さ
	L_d	当該通りの耐力壁の壁長
	P_i	耐力壁の許容せん断力 (片スジカいを考慮した耐力壁)
2.4.水平力 (地震・風圧) に対する耐力壁の検定	W_0	各項目の重量
	W_i	各階の重量合計
	ΣW_i	当該階までの全重量
2.4.1.地震力の算定	Z	地震地域係数 建告1793号で定められた数値
	C_i	i 階の地震層せん断力係数
	C_0	標準せん断力 令88条第2項より0.2以上
	A_i	i 階の地震層せん断力係数の分布係数
	W_i	各階の重量
	ΣW_i	当該階が支えている部分の固定荷重と積載荷重の和
	a_i	全重量に対する i 階より上の重量比
	C'_i	水平構面のせん断力係数 (2002年グレー本)
	eQ_i	i 層に作用する地震力
	ΣP_i	i 層の耐力壁の許容せん断力の合計
	$eQ_i/\Sigma P_i$	検定比 (地震時の水平力に対する建物の許容せん断力の比)

計算書における項目	記号	記号の説明
2.4.2.風圧力の算定	q	速度圧
	ΣC	風上+風下 風力係数の合計値
	Aw	各階見付け面積
	wQ	各部分風圧力
	wQ _i	i階に加わる風圧力合計
	ΣQ_i	当該方向に加わる風圧力総合計
	ΣP_i	i階の耐力壁の許容せん断力合計
	$\Sigma Q_i / \Sigma P_i$	検定比 (風圧力に対する建物の許容せん断力の比)
2.5.鉛直構面の負担水平力に対する検定	I	耐力壁を支持する梁の断面2次モーメント
	E	耐力壁を支持する梁のヤング係数
	P	耐力
	K	剛性
	δ_1	1次梁たわみ
	δ_2	2次梁たわみ
	K'	耐力壁のせん断剛性
	C	剛性低減係数
2.5.2.許容耐力と剛性	α_i	壁倍率
	l _i	壁長さ
	H _i	壁高さ
	K _a	耐力壁のせん断剛性
	C	剛性低減係数
	K _a '	剛性
	D _i	通り剛性
	P _a	耐力壁の許容せん断耐力
	ΣP_a	耐力壁の許容せん断耐力合計
2.5.3.重心の計算	x _j	原点Cからの耐力壁の図心の位置 (X方向)
	y _j	原点Cからの耐力壁の図心の位置 (Y方向)
	G _x	原点CからのX方向剛心位置
	G _y	原点CからのY方向剛心位置
	O _x	原点CからのX方向重心位置
	O _y	原点CからのY方向重心位置
	e _x	X方向偏心距離
	e _y	Y方向偏心距離
	X _j	剛心Gを原点とした耐力壁の図心の位置 (X方向)
	Y _j	剛心Gを原点とした耐力壁の図心の位置 (Y方向)
	J _x +J _y	ねじり剛性
	r _{ex}	X方向弾性半径
	r _{ey}	Y方向弾性半径
	R _{ex}	X方向偏心率
	R _{ey}	Y方向偏心率

計算書における項目	記号	記号の説明
2.5.4.剛心の計算	$D_x j$	通り剛性（X方向加力時）
	y_j	原点Cからの耐力壁の図心の位置（Y方向）
	Y_j	剛心Gを原点とした耐力壁の図心の位置（Y方向）
	G_y	Y方向の剛心位置
	$D_y j$	通り剛性（Y方向加力時）
	x_j	原点Cからの耐力壁の図心の位置（X方向）
	X_j	剛心Gを原点とした耐力壁の図心の位置（X方向）
	G_x	X方向の剛心位置
	O_x	原点CからのX方向重心位置
	O_y	原点CからのY方向重心位置
	G_x	原点CからのX方向剛心位置
	G_y	原点CからのY方向剛心位置
	e_x	X方向偏心距離
	e_y	Y方向偏心距離
	$J_x + J_y$	ねじり剛性
	r_{ex}	X方向弾性半径
	r_{ey}	Y方向弾性半径
	R_{ex}	X方向偏心率
	R_{ey}	Y方向偏心率
2.5.5.許容耐力の検定	α_e	ねじれ補正係数（地震）
	α_w	ねじれ補正係数（風圧：1.0定数）
	D_i	剛性
	Q_e	負担地震耐力
	Q_w	負担風圧力
	P_a	許容耐力
	Q_e / P_a	必要せん断力/設計せん断力（地震時）
	Q_w / P_a	必要せん断力/設計せん断力（風圧時）
2.6.水平構面の負担水平力に対する検定	ΔQ_a	単位長さ当たりの許容せん断耐力
	L	奥行き
	Q_a	合計許容せん断力耐力
	I	スパン
2.6.2.水平構面の負担水平力に対する検定	$Q E_j$	ねじれ補正後のj通りの負担地震力
	$Q W_j$	j通りの負担風圧力
	W_j	j通りの重量（j通りの風圧力）
	$W_{j, j+1}$	j～j+1通りの重量（j～j+1通りの風圧力）
	$W_j \cdot l_j$	j通りの地震力（j通りの風圧力）
	$W_{j, j+1} \cdot l_{j, j+1}$	j～j+1通りの地震力（j～j+1通りの風圧力）
	Q_a	水平構面のせん断耐力
	Q	各通り端のせん断力（地震時/風圧時）

計算書における項目	記号	記号の説明
3.各部の設計		
3.1.軸力の算出 / 3.1.1.耐力壁の応力		壁倍率
		負担水平力
		柱軸力
	β	β 値（端部：0.8/一般部：0.5）
3.1.2.鉛直荷重	G	固定荷重
	P	積載荷重（架構用）
	P e	積載荷重（地震用）
	S	積雪荷重
3.2.柱の設計	N I	長期軸力（G + P）
	N s	短期軸力（G + P + K又はG + P + W）
	M s	軸力+曲げ（外周部のみ）
3.2.2.柱の設計（個別）	L k	材長
	A	断面積
	Z	断面係数
	i	断面 2 次半径
	λ	細長比
	ω	座屈係数
	F c	基準圧縮強度
	F b	基準曲げ強度
	F c v	基準めり込み強度
	A e	有効接地面積（めり込み検定に使用）
	N0	鉛直軸力
	N1	地震時の軸力
	N2 x、N2 y	風圧時の軸力
	N3	短期めり込み軸力
	$\omega 1$	風力圧（風上）
	$\omega 2$	風力圧（風下 X）
	$\omega 3$	風力圧（風下 Y）
	q	速度圧
	C	風力係数
	M s 1	風上側最大モーメント
	M s 2	風下側 X 方向最大モーメント
	M s 3	風下側 Y 方向最大モーメント
	N	軸力（長期/短期/積雪時）
	f c	圧縮許容応力度
	f b	曲げ許容応力度
	f c v	めり込み許容応力度
	f k	座屈許容応力度

計算書における項目	記号	記号の説明
3.3.梁・桁・胴差の設計	Z	断面係数
	A	断面積
	I	断面2次モーメント
3.3.2.梁・桁・胴差の設計（個別）	ω	床荷重
	P	集中加重
	Cf	部材寸法調整係数
	I 0	断面2次モーメント
	Z 0	断面係数
	A e 0	断面積
	I	（設計）断面2次モーメント（低減係数反映）
	Z	（設計）断面係数（低減係数反映）
	A e	（設計）断面積（低減係数反映）
	F b	基準曲げ強度
	F s	基準せん断力強度
	E b	ヤング係数
	Mmax	最大曲げモーメント
	M d 2	集中荷重の加力点の曲げモーメント
	QL	左端部せん断力
	QR	右端部せん断力
	δ	たわみ量
	δ'	クリープたわみ量
	f b	曲げ許容応力度
	f s	せん断許容応力度
	α	断面係数（ $3/2=1.5$ ）
	w	風圧荷重の意味
	e	地震荷重の意味
	m	許容耐力の意味
	水平w	梁上部耐力壁の風圧力による荷重
	水平e	梁上部耐力壁の地震力による荷重
	水平m	梁上部耐力壁の許容耐力による荷重
	水平直交w	直交梁上部耐力壁の風圧力による荷重
	水平直交e	直交梁上部耐力壁の地震力による荷重
	水平直交m	直交梁上部耐力壁の許容耐力による荷重
	w u	上部壁（耐力壁、壁、間仕切り壁）の重量（等分布）
	w d	下部壁（耐力壁、壁の重量（上部 1/2分 等分布）
	3.4.たる木・母屋・根太・他の設計	L
L 1		勾配実長
w		負担幅
$\omega g 0$		固定荷重（単位面積当たり）
$\omega p 0$		積載荷重（単位面積当たり）
I 0		断面2次モーメント
Z 0		断面係数
A e 0	断面積	

計算書における項目	記号	記号の説明
3.4.たる木・母屋・根太・他の設計	I	(設計) 断面2次モーメント (低減係数反映)
	Z	(設計) 断面係数 (低減係数反映)
	A	(設計) 断面積 (低減係数反映)
	F b	曲げ基準強度
	F s	せん断力基準強度
	E b	ヤング係数
	E	告示第1454号第1の値
	q	速度圧
	C	風力係数
	ωg	固定荷重 (単位長さ当たり)
	ωp	積載荷重 (単位長さ当たり)
	ωw	風圧荷重 (単位長さ当たり)
	$l \omega s$	長期積雪荷重 (単位長さ当たり)
	$s \omega s$	短期積雪荷重 (単位長さ当たり)
	f b	曲げ許容応力度 (長期、短期、積雪時)
	f s	せん断許容応力度 (長期、短期、積雪時)
	ω	設計荷重 (単位長さ当たり/長期、短期、積雪時)
	M	曲げモーメント
	Q	せん断力
	σ	曲げ応力度
	τ	せん断応力度
	δ	たわみ量
	I_x0, I_x	強軸断面2次モーメント、強軸 (設計) 断面2次モーメント
	I_y0, I_y	弱軸断面2次モーメント、弱軸 (設計) 断面2次モーメント
	Z_x0, Z_x	強軸断面係数、強軸 (設計) 断面係数
	Z_y0, Z_y	弱軸断面係数、弱軸 (設計) 断面係数
3.5.接合部の設計	TN	引き抜き力 (許容耐力による)
	N	耐力壁間の押えに有効な長期軸力の合計
	V s	耐力壁の回転により発生する軸力の合計
	B	浮上がりに対して建物全体が押さえ込む効果を考慮した係数
3.6.基礎の設計	ΣW	建物総重量
	W1	1階床重量
	f e	地盤支持力
	A	基礎版面積
	W t	基礎立上り部重量
	W s	スラブ重量
	W L	積載荷重
	t	底版厚
	d t	かぶり厚
	n	安全率
	$\omega 0$	支持力 算定用分布荷重
	$\omega 1$	スラブ配筋 算定用分布荷重
	$\omega 2$	地中梁配筋 算定用分布荷重

計算書における項目	記号	記号の説明	
3.6.基礎の設計	I_x	短辺	
	I_y	長辺	
	$d_x、d_y$	底盤上(下)面から下(上)端筋までの寸法	
	$j_x、j_y$	曲げモーメントに抵抗する底盤の応力算定用の距離	
	ω_x	短辺方向の計算に用いる接地圧	
	$M_{x2}、M_{y2}$	固定端部モーメント (M_{x2} :短辺方向 M_{y2} :長辺方向)	
	a_t	鉄筋断面積	
	I	鉄筋間距離	
	$a_{t\max}$	鉄筋断面積	
3.6.3地中梁の設計	L_{ft}	鉄筋・コンクリートの長期引張応力度	
	S_{ft}	鉄筋・コンクリートの短期引張応力度	
	ω	接地圧	
	L_1	スパン	
	D	梁せい	
	b	梁幅	
	d_t	かぶり厚	
	d'	$D-d_t$ (梁せい-かぶり厚)	
	j	曲げモーメントに抵抗する基礎梁の応力中心間距離	
	A	有効コンクリート面積	
	M_L	長期荷重時における曲げモーメント(中央部)	
	Q_L	長期荷重時におけるせん断力(端部)	
	a_t	上部必要 鉄筋断面積	
	τ	単位面積当たりのせん断応力 (Q/A)	
	3.7.1.転倒の検討	L	転倒方向の (基礎の長さ/幅)
Σw		全重量 (建物総重量+転倒基礎重量)	
M_0		転倒方向の (地震時/風圧時) の転倒モーメント	
3.7.2.層間変形角 (令109条の2の2)	γ_{si}	層間変形角の逆数	
	h_i	構造階高	
	δ_i	辺位	
	Q_i	当該階 (又は壁) に作用する水平力	
	P_i	当該階の耐力壁の許容耐力	
3.9.土台アンカーボルトの設計	L	土台材厚	
	F_c	基準圧縮強度	
	d	アンカーボルト径	